

2023年(令和5年)2月22日(水曜日)

市橋さん 国際協力特別賞

JICAのエッセーコンテスト

室蘭・海星学院高校3年の市橋治騎さん(17)が独立行政法人国際協力機構(JICA)主催の国際協力中学生・高校生エッセーコンテストの高校生の部で国際協力特別賞を受賞した。市橋さんは「以前住んだことのあるミャンマーについて書いた。多くの人にエッセーを読んでもらえれば」と入賞を喜んだ。

(坂本綾子)

市橋さんのエッセーのタイトルは「六年前あの一言から言われた「困ったこと」で」。小学4～6年の3年間をミャンマー・ヤンゴンで過ごした市橋さんは、帰

国時にミャンマー人の友人から言われた「困ったこと」があればいつでも日本に助けに行けから」との言葉で救われた経験がある。「その友人に恩返しをするため

か自分にできることはないか」とミャンマーについてのエッセーを書いた。

帰国から6年がたち、市橋さんが住んでいた頃のミャンマーとは状況が一変。新型コロナウイルスの影響で観光客が減ったほか、軍によるクーデター、政情不安での海外企業撤退に伴う難民の増加。「可能であればミャンマーに行きたいがそれはかなわない。今の私



国際協力中学生・高校生エッセーコンテストで国際協力特別賞を受賞した市橋さん

室蘭・海星学院高3年 「途上国に関心を」

にできる」とは多くの人々にミャンマーが抱える現状を伝えること。発展途上国について関心を持ってもらいたい」とつづった。

市橋さんは3月に同校を卒業し、道外の大学へ進学。将来は国際協力の職業に就きたいと考えている。受賞について「大変光栄だが、まだまだ通過点に過ぎない」と話し、今後については「エッセーを多くの人に読んでほしい、世界中で生きづらいつらいと思いがちな生活している人たちに、一人でも多く手を差し伸べられるような活動をしていきたい」と目標を語った。

同コンテストは、中高生を対象に発展途上国の現状や日本との関係について理解を深め、国際社会の中で日本、そして自分たち一人一人がどのように行動すべきかを考えることを目的として実施している。2022年度は「世界とつながる私たち」未来のための小さな一歩」をテーマに募集し、2万4048作品の応募があった。

市橋さんの作品はJICA地球のひろばホームページで読むことが出来る。